

「金沢大学重点戦略経費政策課題対応型研究推進セミナー」を開催

2012年10月3日

10月3日（水）にがん進展制御研究所棟4階 会議室において東京大学医科学研究所 分子療法分野 がん分子標的グループ 特任准教授 後藤 典子先生を迎え、「増殖因子による乳がん幹細胞と肺がんシグナルの制御機構から見てくるがんの個別化医療への道筋」と題して、金沢大学重点戦略経費政策課題対応型研究推進セミナーを開催しました。

セミナーでは、乳がん幹細胞の存在に関わる、EGFRを介した分子機序について最新の研究成果をご紹介頂き、さらにバイオインフォマティクス解析を用いて、肺がんの再発を予想し得る遺伝子発現パターンを発見された研究内容について、興味深いご講演を頂きました。

セミナーには、所内外の研究者並びに大学院生ら約50名が参加し、とても活発な質疑応答や意見交換が行われました。



増殖因子による乳がん幹細胞と肺がんシグナルの制御機構から見えてくるがんの個別化医療への道筋

講演者

東京大学医科学研究所
分子療法分野 がん分子標的研究グループ
特任准教授

後藤 典子 先生

日時：平成24年10月3日(水) 16:30～17:30

場所：金沢大学がん進展制御研究所 4F 会議室

後藤典子先生は金沢大学医学部在学中に山本健一先生のもとで研究を始め、東京大学医学研究科 渋谷正史先生のもとで研究を続けられ、平成19年より独立して現在の研究室を主宰しています。後藤先生のグループでは、増殖因子受容体のシグナル伝達に着目して、分子生物学とバイオインフォマティクスとを組み合わせたユニークな手法により、がんの複雑な病態の解明に取り組んでいます(Proc Natl Acad Sci USA. 109: 6584, 2012, ニュートン2012年8月号など)。本セミナーではこの取り組みの一端を紹介して頂きます。

皆様奮ってご参加、ご討論下さい。